

放課後子どもプラン県北地区研修会

主催：福島県 福島県教育委員会

目的： 地域が子どもたちを支えていく取組を推進するため、県内の放課後子どもプラン関係者等が一堂に会し、事業への理解を深めるとともに、放課後対策事業の関係者の資質向上を図る。

日時：平成27年9月1日（火） 13:00～16:30

研修会場：福島市松川学習センター 研修室3

参加者：48名



講演 「豊かな放課後が子どもを元気にする」

講師 千葉敬愛短期大学長

明石 要一 氏

1 世の中の変動を理解する。

- ・ 幼児の遊びがこの10年間で変化し、「ものづくり遊び」から「配膳遊び」に変わってきた。働く母親が増えてきたことが背景にある。昼食の弁当で「臭い」が消えたのは電子レンジの普及が影響している。親が子どもの前で苦労して、手間暇かけて料理を作る場面を見せることが大切。
- ・ 教育は、縦(教師と子ども)、横(子ども同士)、斜め(いとこ)の関係で表される。いとこの数やボーイスカウト、ガールスカウトなどに加入する子どもが減少している。そのため競争意識が低く、相談相手もない。斜め関係をどう構築していくかが課題。



2 子どもが変わってきた

- ・ バレーボールの試合ができない生徒が増えてきている。子どもの頃にいろいろな遊びを体験してきていないことが影響していると思われる。
- ・ 意思決定ができない子どもが増えてきている。親をはじめ周囲の大人が決めてくれていることが背景にあるので、子どもに選択する部分を与えることが大切である。
- ・ 子どもの大人化が進んでいる。スケジュールに追われる忙しい子どもが増えてきており、集団づくりもできなくなっている。

3 体験が人生の成功を決める

- ・ 体験活動の重要性は、学力調査の結果との関連で明らかである。自然体験をした者は全国学力学習状況調査のB問題の成績がよいとのデータがある。しかし、少子化、情報化社会の進展等の社会変化に起因し、子ども達を取り巻く環境が変わり、経験不足、体験不足が問題になってきている。小学2年生までに、いろいろな体験をさせてほしい。体験のゴールデン・エイジは小学3・4年生なので、ぜひ、放課後子ども教室で、子どもたちが遊び出す仕掛け作りをお願いしたい。遊び惚ける文化を創ってほしい。

実技研修

「子どもから大人まで夢中になれるマンカラ」

福島県レクリエーション協会事務局長 佐藤 喜也 氏

1 アイスブレイク 2 マンカラの遊び方の説明 3 マンカラの体験

実技研修では、実際にマンカラを研修者が体験することにより、自分なりの戦略を立てながらゲームを理解することができた。ルールが簡単なだけに小さな子でも容易に取り組む事ができるが、子どもが大人を負かすという意外性も有るため、幅広い年齢層が楽しむ事ができる。活動場所が限られている教室や、外遊びができない日の活動に有効である。また、マンカラのゲームを通して研修者同士の交流を図ることができた。



情報交換

6つのグループに分かれ、参加者がそれぞれの子ども教室の様子について持参資料をもとに説明し、情報交換を行った。実践事例をA4用紙1枚にまとめて持参したため、他の教室の状況をより具体的に知る事ができた。情報交換の中で、教室がおかれている現状なども話題に上がり、大変中身の濃い情報交換になった。



〇〇 研修者からの声 〇〇

明石先生の講演を聴き、私たちが子ども教室の活動プログラムを考える上で、子どもたちの考える力を引き出せるようなものにすべきだと反省した所です。マンカラは頭をつかい疲れましたが（笑）。小さい子から大人まで一緒に楽しめるので、今後の活動にぜひ取り入れたいです。情報交換で参加者がそれぞれ資料を持ち合うのはとても良かったです。